

4月25日(土)～5月3日(日)まで8泊9日でNPT ニューヨーク行動に参加してきました。この行動の目的、気づきや学びを報告します。



パレード前の集会場。

1. NPT ニューヨーク行動の目的

- ①NPT ニューヨーク行動代表団(以下、代表団)としての任務を果たすこと。
- ②生協労組おかやまの代表として「平和を求める声」を上げること。
- ③アメリカの市民との交流や平和団体、労働組合などの諸団体との交流により相互理解を深めること。

代表団としての  
の任務とは



『核兵器全面禁止のアピール』署名に託された核兵器全面禁止の願いをNPT再検討会議に伝え、反映するために署名の現物を(中略)国連本部前(ハマースホルド広場)に積み上げ、すべての署名を目録としてNPT再検討会議議長と国連代表に提出する」こと。(「」内は原水協HPより引用)

2. 代表団の構成

総勢 1058 名

生協労連から 25 名参加

そのうち 22 名がニューヨークコース、3 名(内田含む)がコネチカットコース。コネチカットコースは 31 名が参加。生協労連以外には JMIU、自治労連、地域医療生協、地域原水協など。



国連前広場に積み上げられた署名  
積み上げられた市民の声。

3. 行程(コネチカットコース)

日時	行程	日時	行程
4月25日 朝	岡山出発	4月29日 午後	移動時間
	ここからアメリカ時間(日本より-13Hの時差)	4月30日 夜	ニューヘイブン平和委員会との交流会
4月26日 25:00	現地ホテル到着	4月30日 午前	コミュニティカレッジ訪問 学生と交流
4月26日 8:00	ミーティング	午後	公務労働者との交流
	署名活動 @セントラルパーク	5月1日 午前	ニューヘイブン労働運動史ツアー
	ピースパレード集会	午後	フードコープの労働組合との交流
	パレードと署名提出	夕方	メーデー集会
4月27日 午前	アメリカ反戦労働者連盟との交流集会		パレード
	うたごえコンサート	夜	UE地方支部との交流パーティ
	国際シンポジウム	5月2日	出発
4月28日 9:00	国連見学、その後自由行動		ここから日本時間(アメリカより+13Hの時差)
	自由行動	5月3日 9:00	岡山到着
	夜 生協労連交流会		
4月29日 午前	自由行動		

4. 平和の訴えと署名の提出 NPT 代表団としての任務の遂行

4月26日に行われたピースパレード(主催者発表10,000人参加)では生協労連の参加者で平和と核廃絶を訴えました。街行く人の反応もよく、核兵器廃絶が世界の合意事項であることを改めて実感しました。

ピースパレード後に国連前広場に積み上げられた署名は6,336,205筆でした。当日午前中にセントラルパークで集めた署名もその中に含まれています。前回NPT会議(2010年)以降日本全国の地域や職場でコツコツと集められてきたこの署名を国連代表に無事提出することができました。



パレードで掲げたプラカード



署名に協力してくれた方と折り鶴を手に

## 5. 行動の様子と感じたこと



署名に応じてくれた方。

記念すべき一人目(実は日本人だった…)



ピースパレード中、街のあちこちからのエール。通り沿いの建物からピースサインも。

### 核兵器廃絶に対する社会の受け止め

アメリカに来て活動初日、午前中にセントラルパークで署名行動。拙い英語で歩く人呼び止めて英文の署名を見せながら対話。不審者だと思われたのか要件も聞かずに断る人も少なくなかったですが、それでも1時間少しで18筆。お礼の折り鶴は好評。“ORIGAMI”の知名度が高いことに驚きました。午後からのピースパレードの活気と街行く人のリアクションが強烈ですごく印象に残りました。僕たちが「We shall overcome」を歌いながらパレードをしていると、信号待ちのおばあさんが一緒に口ずさんでくれました。他にも走る車からもノリノリでエール、通り沿いのビルからも窓から乗り出してピースサイン、オープンカフェでくつろぐお客さんからも、道行く人からも・・・という具合で、まさに街の全体がパレードを受け入れてくれているようでした。アメリカの文化として市民運動に対する寛容さもあるのかもしれませんが「核兵器廃絶」がいかに市民に受け入れられる主張であるのかということを実感しました。



顔を上げた一瞬をとらえた写真

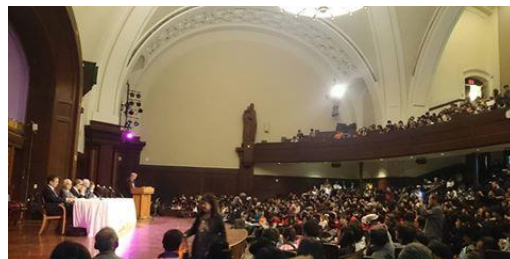
### これからの日本の平和運動の展望

アメリカ反戦労働者連盟との交流では日本の労働組合を代表して何人が発言をしました。内田も生協労連の代表として発言。緊張していたのと元来からのスピーチ下手によりずっと下をうつむいて原稿を読んでしまい写真を撮りづらかったとのこと(撮影者の弁) 発言の要旨は以下。

「伝統的に平和運動に取り組んできた日本の生協だからこそ掲げられる平和への思いがある。生協に対してもっと平和運動に積極的になってほしい。生協労働者が平和運動を行うことが、平和運動に携わる生協組合員さんを励まし、生協が平和運動を展開することを励ますことにつながる、そういう「運動の相互作用性」が日本の平和運動を発展させるという展望を持って、引き続き平和運動に関わっていきたい。」



会議の合間に企画されたうたごえコンサートを鑑賞。まさか海外でうたごえを聞くとは・・・



うたごえのあと開催された原水協代表団会議



国連を見学。NPT 開催中のため参加国の国旗が掲げられていました。

### 核保有国の抱える矛盾

一連のNPT行動に参加している代表団全員(1058人)が一同に会して開かれた原水協代表団会議のメインは核兵器廃絶の世界の運動に関わる要職の方々を迎えての国際シンポジウム。どの発言者も国際社会の核廃絶の機運も交えながら市民運動がうねりをつくりだし、NPT会議を励ます役割や重要出づいて指摘されていました。「『軍事的緊張の続く間核保有国認められるべき』という一見現実主義のような主張もあるが、核保有しているからこそ軍事的緊張が高まる、という側面を直視しなければいけない」という指摘は非常に説得力を感じました。(発言者が誰かは忘れた・・・)





アメリカには出汁の文化がないのかどこで食べても大味ですっかり参ってしまう・・・。そのため滞在 4 日にして日本食が恋しくなり和食レストランに入りすき焼きを食べる。



ニューヘイブン平和委員会の歓迎会で沖縄民謡に併せて踊りだす人々。みんなノリノリ。



学生との交流。被爆証言にショックを受ける学生との質疑応答の様子

### 日本は民主主義国家なのか？

NPT ニューヨーク行動の後半はニューヨークから車で 3 時間のコネチカット州ニューヘイブンで活動。現地労働組合や平和委員会との交流、コミュニティカレッジの授業にお邪魔しての学生とディスカッションなど盛りだくさんでした。学生とのディスカッションの前にこちらから被爆証言と沖縄の基地問題を伝え、この二点を題材にした議論を行いました。学生の関心は主に沖縄の基地問題だったようでそちらへの質疑が集中しました。興味深かったのは、沖縄問題でこれほど反発があるのに政府はその声に応じない、ということへの学生の反応です。「日本は本当に民主国家なのか?」「アメリカは何の権限があって居座っているのか」「日米両政府には国民の声を無視して基地を撤去しなくてよい、のという密約があるのか」などの質問が出されました。民主主義のルールをいかに逸脱した異常事態が沖縄で起きているか、沖縄の基地をめぐるたたかいは日本社会に日本の民主主義を問うている問題なのだとすることをアメリカの学生の反応を見て改めて感じました。



公務労働者の労働組合との懇談。アメリカの労働協約は基本的に期限付きのものである、など制度や慣例の日米の違いを目の当たりにしました。



ニューヘイブンのメーデーに参加。市長も挨拶に(左写真)ニューヘイブンは最近選挙によって議員の半数が労働組合出身となったこともあり行政と労働組合の接点も太い様子。パレードの途中、ひどい労働条件のレストランへの抗議行動も。5 分ほど演説の後、なんと店の中にみんなでなだれ込む。(右写真)



フードコープの労働者との懇談。

日本の生協労働者と同じような悩みを抱えている。共通点の多さに大いに親近感がわきました。



フードコープ労働者と。組合員への広報に力を入れているとのこと。

### 協同組合労働者の連帯

フードコープ(日本でいう生協)の労働組合の方々との懇談はとても刺激的な体験でした。「協同組合に労働組合は必要ないのでは?という議論もあるが私たちはその立場ではない」「協同組合労働者は組合員への奉仕の精神と自分たちの労働条件をまもることとの間で苦しんでいる」など多くの共通点を確認できました。「フードコープとたたかうために顧客(組合員)にもたたかひ見えるようにする。経営陣だけでなく組合員も協同組合のオーナーだからこそ働きかけをする。地域の他団体にも協力を呼びかける。」「工場の労働者と違って顧客とすぐに会える。来店してくれるから。ストライキに対して労組員が消極的な面があるのはアメリカでも同じ。もちろんいざとなったら決行するがストに至るまでに解決できるように、顧客への広報や地域での連帯することが大切」など意見を交流しました。国は違えど協同組合労働者として同じ課題を抱えていることに深いつながりを感じました。



**民主主義の実践**ピースパレードやメーデーパレードに参加する人々の様子や街行く人々の反応を感じ、また学生との議論を通じて市民の力や社会について感じることが多くありました。アメリカで出会った市民、学生などからは「自分の思いは遠慮せず主張して当然（デモだろうと署名だろうと）」「市民の主張が政治に反映されなければ民主国家ではない」というある意味現代社会の市民として当然なはずの姿勢を感じました。



メーデーパレード エネルギーと怒りに満ちあふれていた

**署名に意味があるのか？という問いへの回答**日本ではよく「署名なんて意味があるの？」という疑問が出されます。この質問を国際シンポジウムの場面で海外代表の活動家に日本の参加者が尋ねる場面がありました。海外代表の方は「市民運動こそが重要」という趣旨の回答をしていました。傍から見ていてかみ合っていないような印象を持ちました。この質疑を見て、「この問い（「署名に意味はないのではないか」という問い）は日本人特有の疑問であり、なぜそこに疑問を持つのか海外代表の方は理解しづらい、ということなのではないか」と感じました。

そもそも署名は自分の主張を表明するツールです。そして自分の主張を表明することは当然のことであり、その主張を汲み入れるように社会に要請することもまた当然のことであるはずで。なぜなら私たちが住む社会は民主主義社会(市民の声により政策決定がされる社会)であるからです。そして署名を「意味がある」ものにできるかどうかは、私たちがその後も政治を見届け、声をあげ、主張に同意する議員を増やすことにかかっています。つまり「意味があるの？」と疑問を呈した本人自身が問われているということではないでしょうか？



資本主義の犯罪性を告発するプラカード

**アメリカから見える日本の異常事態**今回の8泊9日のアメリカ滞在で一番考えさせられたのは「民主主義とはなにか」ということです。滞在後半で学生に尋ねられた「日本は本当に民主国家なのか」という問いは自分の胸に深く突き刺さりました。私たちは胸を張って民主主義を実践できている、といえるでしょうか？いま国政では多くの場面で世論とは違う政治的判断が行われています。憲法の解釈一つをとっても世論とは違い「粛々」と変更が行われました。そして政権はそれでも維持されたままです。NPT ニューヨーク行動の旅によりこの異常さに改めて気づかされたように思います。

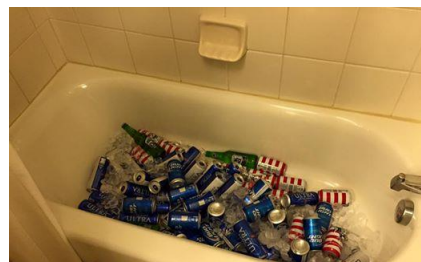


フェリーの上からウォール街を望む

おまけ 自由時間での観光や最終夜のパーティの一場面。



NYの郊外 リトルイタリアの街並み



アメリカンパーティスタイル

バスタブに氷を張っている。豪快。



自由の女神も一応見に行きました。